



てらる



2021年
11月
No.887

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「天国に旅立たれた人たち」

日本福音ルーテル小岩教会牧師 内藤文子

「こう言つてから、『ラザロ、出て来なさい』と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、『ほどいてやつて、行かせなさい』と言われた。」
ヨハネによる福音書11章43〜44節



全聖徒主日を迎えます。私たちがより前に、天国に旅立たれた人々を覚えませう。

教会によつては、召天者のお写真を並べます。すでに天に召されていますが、この世にありし日の命が輝いていた頃のお姿が思い出されます。そして、そのおなつかしい笑顔を見ながら、私たちが、残された日々を主にあつて、ありのままに安らかに歩みたいと願います。それはまるで、私たちに「死に向けての準備、心構えをしなさい」と導いてくれているようです。牧師である私であつても、死を前にすることになつたら、どうでしょう。衝撃を受け、まさに真剣に祈るでしょう。死と隣り合わせの生を



カラヴァッジオ作「ラザロの復活」(1609年頃)
メッシーナ州立美術館所蔵

一日日生きながら、十字架の贖いにするにより救われる恵みをまさにまのあたりにするでしょう。ヨハネによる福音書11章には、墓に着いたイエスさまがいます。その墓に病気で葬られたラザロが眠っています。そして、そばにはイエスさまのお出でを今か今かと待ち続けた姉のマルタ。マルタが言います。「主よ、四日もたつていますから、もうにおいませ。」(39節)遺体は腐り始めています。状況を伝えます。イエスさまは、天を仰いで、父なる神に感謝し、その後、墓に葬られたラザロを大声で呼びます。「ラザロ、出て来なさい。」(43節)ラザロは手と足を布で巻か

れたまま出て来ました。人間の悲しみの極み、それは愛する者の死。誰もが遭遇します。それは、すべての人の上に起きてくるのです。2千年前、ラザロという一人の人の上にその悲しみが起きました。しかし、悲しみを前に、ラザロを死から生へよみがえらせるといふ奇跡が起こつたのです。私たちは、時に不条理に満ちたこの世を生き、そして命の限界を知り空しきを感じます。しかし主イエスさまと出会い、十字架と復活を信じる者は、苦難の中にも、神が共にいてくださる。終わりの日には主イエスさまと同じ栄光の体に変えられるのです。

この約2年間、コロナ禍の中、何人かの信仰の友を天に送りました。新型コロナウイルス感染防止のため、大変親しくしていた方へ最後のお別れをすることが許されませんでした。家族さえ病室に入ることが禁止されましたので、お見舞い出来なかつた近しい方々が多くいます。残念な思いは尽きませんが、信仰の友

たちは、皆主イエスさまと共に歩みひっそりと天に移つた。それにより、ひとりひとりへの神のなさる救いのすべてが完結したと感じるとき、感謝にたえません。もう6年前になります。(コロナ禍ではありませんでしたが)私が牧会していた教会のリーダー的役割をしておられた一人の女性信徒が亡くなりました。しかし、死を覚悟してから2年の彼女の残した最後の日々は、孤独の内にも、主と共に歩み進んでい

「炎天下日陰日陰を選択び歩き」末期のがんの闘病を続けつつ、夏から秋に厳しい暑さの中でも、なんとか前向きに「一歩一歩歩いた彼女の残した俳句です。」

主イエス・キリストへの信仰を貫き、教会を愛していた彼女のそれからの、「終活」の時は、牧師の私がびつくりさせられるものでした。「もう、あと数ヶ月しか命は持ちません。今のうちに教会で、証しをさせてください。」ご自分からの申し出で、礼拝の説教の後、彼女が「主イエスさまと

の出会いと、教会生活。そして、晩年、熱心に取り組んだ平和活動について。」を証しされたのです。その後は、家にあるものの整理。手編みの衣類は、サイズの合う方を尋ねて贈られる。家事道具も、教会や個人へ「使つてくださいなね。」と分かち合う。自分より高齢の方のお祝いの会をどうしようとして差し上げたいと、痛む体を押しして、企画・開催したその宴席は驚く程、心のこもつたものでした。

最後に病床でお祈りした時に言われた言葉が忘れられません。「こんなに長く生きるとは思いませんでした。神様に与えられた時間が残り少ないとわかつたとき、短い時間をいかに質を豊かにするかを心がけました。クオリティオブライフです。」残された時をどう生きようか。それは自分出来ることを精一杯、神様のために、隣人のために捧げるといふこと。信仰により、まっすぐつながる神様の国への最後の道のりを、彼女は歩き終えたのです。 十



⑳「思い出」
伊藤早奈

「わたしは言つたであろう。『彼らを跡形もなくし／人々から彼らの記憶を消してしまおう』と。」申命記32・26

「あーこんなこと忘れられたらいいのに。」「これはいつまでも覚えてたいな。」でも記憶つて選べませぬよね。私は今、車椅子の生活がほとんどです。自分の足で歩いたり走ったりしたことを忘れたらと思つたことは何度もあります。「記憶なんて無くなればどんなに楽だろう」と。

でもこのことは忘れたくないな、と忘れたくないことも自分にはいっぱいあることを思います。病気で記憶を失つていく人になががします。

病院などで出会いました。ほとんどの方が自分で忘れたくないことまで忘れることがあり辛そうです。覚えていられるからこそわかると思うことがいくつかけられていた時に電車で席を譲るか譲らないかとても迷い、結果席を譲ろうとして断られた経験がありました。逆に杖で歩くようになり電車で立つていたら席を譲つて下さった人がいて嬉しくて「ありがとう。」と云つて座りました。あれ私今「ありがとう。」と云つたら人から何かしてもらふと私は大抵「すいません」と言つていました。何も悪いことしてないのに。感謝が謙遜になつていたかもしれない。ただ譲る側の気持ちになると別に謙遜して欲しいわけではなく感謝されるだけでも嬉しいんだと思ひ「ありがとう」を伝えることが増えたようになががします。

教会讃美歌 増補分冊I 2021年10月31日発売

ご購入の方法
全国のキリスト教書店、また一般の書店でもお求めいただけます。また日本福音ルーテル教会事務局でもお買い求めいただけます。(送料のご負担をお願いしています)
*連絡先
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
日本福音ルーテル教会 事務局
電話 03-3260-8631 FAX 03-3260-8641
メール: soumu08@jelc.or.jp 定価1,100円(税込)



議長室から 大柴謙治

11月は死者を覚える月、私たちにつながる大切な人々のことを想起する時です。私たち夫婦は2006年から2017年にかけて親を見送ってきました。それ以来最も慰められてきたオーディオブックをご紹介します。

「息」とも「風」とも訳されますが、その息遣いは霊の臨在をすぐ身近に感じさせてくれ、悲しむ者に不思議な慰めを与えてくれます。呼吸が楽になるのです。私たちはこれまで少なからぬ方々にこのアルバムをお贈りしてきました。

慰められる声の力〜Graceful Passages〜

このCDアルバムは私たち夫婦を深いところで慰め、支え、励ましてきてくれました。メッセージの内容は多様ですが、二つが「Inspirational」の声とことばと音楽が心に響きます。聖書で「霊は

「地震の後に火が起った。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。」(列王記上19:12)

「教会讃美歌 増補」解説



⑰増補5番「いのちのさなか死に囲まれて」・増補6番「これこそ聖なる十の戒めよ」

讃美歌委員会

日笠山吉之 (札幌教会牧師)

増補5番「いのちのさなか死に囲まれて」

この讃美歌では、誰もが避けることのできない死を前にして、人は誰に救いを願うことが出来るのか?ということがまず問われます。キリスト者は幸

いなことにその答えを持っていきます。「主よ、あなただけ」と。それゆえ後半では主を「聖なる神、私たちの神、慈愛の救い主、永遠の神」と呼ばわり、主に「死の淵から、助けてください」「陰府の火から、助けてください」「堅い信仰に立たせてください」と祈り、「キリエレISON」(主よ、憐れみたまえの意)と締めくくられます。第1節は、8世紀に作られたラテン語の応答歌をルターがドイツ語訳にしたもの。ルターは、昔から歌い継がれてきたこの讃美歌の価値を認めていたのでしょう。さらにルターは、自身で2節と3節を書き

加えました。こうしてルターの手によって新たに生まれ変わった讃美歌は、1537年には早くも当時のカトリック教会の讃美歌集に収められました。良い歌は、教派を超えて広く用いられるという好例ですね。メロディーはルターによるものではなく、ツブルクで歌われていたようです。

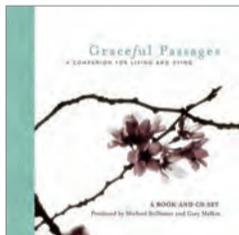
増補6番「これこそ聖なる十の戒めよ」

言わずもがな「十戒」をテキストとするカテキズム(教理問答)コラールです。ルターは、子どもたちにもまた大人に対しても、生涯

にわたって信仰教育が必要であると考えていました。そのため産み出されたのが、ルーテル教会員なら誰でも一度は学んだことがある『エンキリデオン(小教理問答)』です。然り、エンキリデオンとは「必携」と言う意味ですから、洗礼や堅信の時だけでなく、信仰生活を全うするまで私たちは常にこれを傍に置いて学び続ける必要があるのです。ルターもそれを強く願っていたのでしよう。『エンキリデオン』の筆頭に収録された「十戒」を歌えるようにしました。私たちは字面を追うだけではなかなか頭に入ってきたませんが、それが歌にな

Farewell my father, farewell my mother. と親しく呼びかけながら「私を愛してくれてありがとう。私にあなたを愛させてくれてありがとう」と別れを告げる声は私の魂に響きます。『Farewell』(「きげんよう」)とはなんと美しく温かな響きを持つ言葉であることでしょうか。それが私の心に深く響いてくるのは、親にきちんと感じ別れの言葉が告げることができなかったという悔いの気持ちが私に残っているためでしょう。御国においてももし再会が許され

るならば、いろいろと話したいと思っています。COVID-19によって世界ではこれまで500万人もの生命が失われました。ここから嘆きの声が聞こえてくるように思います。天に召された者の魂のために、そして遺された者の魂のために、主の慰めと平安とをお祈りいたします。



requiem aeternam.

LWF、20周年記念版の出版

今から4年前、2017年の宗教改革500年記念は、現代を生きるルター派クリスチャンの信仰の記憶に深く刻まれたことと思えます。実はもうひとつ、ルター派の信仰の歴史に残る大きな出来事がありました。こちらは神学に関する話題だったために、一般にはそれほど知られていませんが、今から22年前の宗教改革記念日、1999年10月31日にドイツのアウトグスブルクで、ルーテル

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.

(世界宣教事市ヶ谷教会、スオミ教会牧師)

「義認の教理に関する共同宣言」その後

教会とカトリック教会が交わした「義認の教理に関する共同宣言」(Joint Declaration on the Doctrine of Justification)「頭文字をとってJDDJ」。救いは神からの賜物という信仰の根幹に関わる解釈していた歴史を解決しようという両教会が歩み寄り、署名した合意文書のことです。その後何らかの進展があったのかどうかは気になるところですが、この歴史的宣言を他教会が受け入れたことについては、あまり知られていません。



ルuter世界連盟(LWF)のように他教派にも世界規模の教会連合組織がありますが、世界メソジスト協議会が2006年に、全聖公会中央協議会が2016年に、そして2017年に世界改革派教会共同体がJDDJを受け入れました。そしてこれら五つの教会連合団体は、1999年から20年後の2019年3月に米ノートルダム大学に代表を派遣共同声明を発表し、JDDJについての合意を再確認したのです。それが「義認の教理に関する共同宣言」20周年記念版は以下のサイトからダウンロードできます。



パンデミックの中の教会

西教区の取り組みから

竹田大地
 (西教区書記・伝道奉仕部長・西宮教会・神戸東教会・神戸教会牧師)

西教区においては、特に関西圏を中心に多大な影響を受けた。まん延防止等重点措置下での各教会の判断は、まちまちであったが、緊急事態宣言下においてはすべて教会が礼拝堂に集つて

分上りの日々が緊急事態宣言下であり、首都圏同様に大変な状況に置かれ、礼拝においても既に半数近くの主日が自粛となつている。

この間、西教区内の各教会は、Facebook・YouTubeでの配信など新しいツールを用いる教会、毎週の週報・説教要旨発送、メールでのお知らせなどでカバーする教会と対応は一定ではなかったが、各教会の状況に合わせて牧師役員会で判断されていた。問題点として、

- ①新しいツール、特にインターネットを用いての礼拝は技術的差異、機材の差異などが大きく影響。
 - ②インターネット配信をしない教会の通信輸送料の増加。
 - ③明確な基準が無く、各教会の判断にまつたく委任されていること。
 - ④複数教会兼任の牧師の県外移動の問題(心理的健康的不安、忌避感)。
- 緊急事態宣言当該地域教会の地域での患者発生のために県外の担当教会に行けない事態の発生。
- 特に④については、広範な地域を担う兼牧に

おいて、緊急事態宣言地域、感染者増加地域のため思いがあつても礼拝に行けない、執行できないということが生じている。これは首都圏、関西圏の牧師とは一線を画す事態であると言える。

いずれにしてもこのような状況下においていかに礼拝を担保するかが課題であり、各教会とも新しい取り組みを余儀なくされた。また西教区においては関西地区と東・西中国地区とでパンデミック下の在り方についてコントラスト

記事の二つは、教会の駐車場で扱った最初の朝食です。教会の女性会の方たちが、『何はなくともまず朝ごはん』と食卓の準備に向かい、『ペットボトルの水とお米とみそ、それにありあわせの乾物』で用意されたおにぎりとお味噌汁。教会の駐車場で、『避難して来られ、寒さの中で共に夜を明かした』近所さんと信徒さんたち20人ほどで囲む食卓で、小泉牧師は、詩篇23篇5節の言葉を通して、

また、被災2日後の礼拝で行った愛餐(アガペーミール)でのパンのわかちあい(しかも避難者から提供されたチョコパン)も印象的です。それは、『分かち合う』ことで、共に支え合う

ブックレビュー

「わかちあいの食卓」
 小泉基著
 (かんよう出版2021年)



秋山 仁
 (豊中教会牧師・喜望峯の家代表)

2016年4月14日と16日、2度にわたる最大震度7の地震が熊本地方を襲いました。熊本市に隣接する益城町を中心に大きな被害がもたらされた「熊本地震」。このとき、熊本市内でも被害の大きかった東区にあつたのが、著者小泉基牧師

が当時牧会していた健康教会でした。2度の大きな揺れにもかかわらず、健康教会は、幸いにしてしっかりとした基礎工事のおかげでびくともせず、「避難できます」という張り紙を出したそうです。

2度目の大きな揺れの後、著者も家族共々、教会の駐車場で、近所から避難してきた人たちと一緒に、不安の夜を明かします。が、その翌日から、とりあえずの「私設」の避難所として、教会堂を開放することに なります。その後四十数日間、健康教会は、地域の避難所として、また地域への生活復旧支援の拠点として活動を続けました。

本書「わかちあいの食卓」は、このときの避難所

開設から、その解消までの日々、牧師であつた著者が経験したことを通して、聖書を読んでいった二つの記録です。著者は被災直後から、SNSを通して、被災地や避難所の様子を発信していました。それらの発信された情報が、本書の下部になつています。(小泉牧師のブログの記録は、地震発生の翌年に健康教会がまとめた「あの時わたしは、熊本地震と健康ルーテル教会」という文集に収録されています。)

「わかちあう食卓」という題名から明らかになように、本書は避難所での食事や食卓の出来事、あるいは最寄りの小学校で行った炊き出しなどを中心に記述されています。印象的な

存在になる」という著者の言葉とともに、教会という共同体が、原始教会以来保つてきた「パン裂き」を中心としたものであることを、想起させます。各章は、また避難所の経験を通して聖書の言葉の解き明かしにもなっています。「わかちあうこと」を中心に、避難されていた方々に寄り添いながら、健康ルーテル避難所は活動していました。

本書は、教会が本来潜在的に持っている地域のなかでの役割を、あらためて教えてくれます。教会が地域における防災拠点の二つとなつている、その実際の姿が垣間見られます。地域防災の観点からも、ぜひ本書を手にとられることをお勧めいたします。

め、ひとつは宗教をも国の統制下に置くために、教会も学校も施設も分離させられ、宣教師は追放、宣教師は日本福音ルーテル社と改名させられました。戦後は、教会・学校・施設の再建が、社団を通して米国教会からの莫大な援助を得て行われました。それが一段落して、日本の教会が経済的自給に踏み切ると、社団は宣教師会の土地や建物の管理団体という存在になりました。

1985年に一人の国際難民のお世話を始めたのが、社団が新たな存在意義に目覚める契機になりました。やがて木造アパートを購入して本格的な難民シェルターを始めました。一時は社団法人を解散してはという話もあつたのですが、戦前から社会に大

JELAが財団法人として出発

古屋四朗
 (二般財団法人JELLA理事長・日吉教会)

このほど、JELLAは日本福音ルーテル社団(Japan Evangelical Lutheran Association)という名称の社団法人から、財団法人に転換し、「二般財団法人JELLA」となりました。

ルーテルグループには多くの法人がありますが、JELLAは1909年創立の一番古い法人です。創設当初は、アメリカのルーテル教会から来た宣教師たちの社団法人でした。戦前にできた教会、学校、福祉施設などの大半は、この社団法人の中に取り込まれました。

しかし軍国主義の足音と共に、ひとつは敵国アメリカの影響を排除するた

きな貢献をしてきた信用を活かして、教会ではできない公益活動をする団体に変身しようと決め、次々に新しいプログラムを始めました。国内外のパートナー団体との提携により、少ない職員で幅広い活動を展開しています。

次の目標は、公益法人になることです。公益法人になると、公益団体として高い信用を得ることができ、寄付者にも税制特典を提供できます。ルーテル教会の身内の団体ではなく、隣人愛に共感するすべての方々に参画していただける組織になります。しかし一方で、理念や運営体制は今後もルーテルグループの一員として安定させたい。そこで、法人形態を財団法人に転換した上で、幅広く継続的な寄付者を募り、この方々には「JELLAサポーター」として参画していただくことにしました。

また、正式名称からあえて「ルーテル」を外しました。「JELLAサポーター」は、毎月または毎年一定額の寄付を通じて、継続的にJELLAを支えてくださる方々です。金額は、高校生でもできる年額千円から、月額一万円まで、お気持ちで決めていただきます。JELLAのホームページから登録できるので、あなたもJELLAサポーターになつていただけませんか？



JELA ミッションセンター1階ホールにあるステンドグラス
 マタイ伝 25章にある、飢えた人、渴いた人、旅人、裸の人、病人、牢にいたる人に手を差し伸べる様子を描いている

第7次総合方策の紹介(7)

事務局長 滝田浩之

■方策本文より

第7次総合方策本文

2. 宣教態勢

(1) 個々の教会

日本福音ルーテル教会の宣教態勢は、個々の教会の宣教活動、それを支える教区による共同の宣教活動、さらに包括的に補う形で全体教会（本教会）の宣教活動により成り立っている。

(1) 共同宣教

宣教の第一線は個々の教会であるが、それぞれに日本福音ルーテル教会の宣教の働きと責任を担っている。それゆえ

個々の教会と教区及び本教会が連携するために、日本福音ルーテル教会として宣教を担い合っている意識と一致が根底に保たれる必要がある。

(2) 自給と教会形成

個々の教会が宣教する教会であるために、基本姿勢として自給を目指すことを前提として教会形成が目指されてきたが、それぞれの置かれた状況により個々の教会の共同により自給が果たされている現状がある。包括的には教区自給の態勢で進められている。

(3) 適正規模

個々の教会の適正規模

というものは存在しないが、宗教法人格のある教会の場合、役員構成メンバーが3名を切った時

とを鑑み、現実的に役員

の任を果たすことができ

る役員5名の選出が難しい状況に陥った場合を二つの目安として、あえて伝道所（集会所）となる

こと、あるいは建物の維持に困難を覚える場合、閉鎖、家庭集会所として

再出発できる。何よりも

教会が充実するためのあり方として、組織のあり方、多様な礼拝の持ち方があることを確認する。

教会種別のあり方も含めて、規則も整備を進める。

(2) 教区

(1) 教区の責任

教区は与えられた地域での宣教と、そこに置かれている個々の教会の伝道を推進する責任を有する。

(2) 宣教拠点の適正化

各教区の歴史及びそれぞれの宣教計画の独自性を尊重しつつ、地域の協力態勢の構築と教会間の共同を進めるために、今

後も教区レベルで取り組んでいくこととする。（全体教会としては個教会の編成時のガイドラインを規則化と共に整えることとする。この場合文化庁

の不活動宗教法人への対応を参考とする。）

(3) 主日礼拝

個々の教会における共同、地区での共同による、兼牧、連立という兼任態勢にある教会の主日礼拝に限定しない。また、

毎週主日礼拝が行われることが望ましいが、個別の教会、あるいは地域によつては隔週、月1回程度であったも「魂の配慮の場」として礼拝が行われる場合、これを主日礼拝として理解する。

(3) 本教会

(1) 本教会事務局

全体教会の実務を担う機能を果たすために、以下の点に留意する。

a. 責任と権限の明確化（本教会、教区）

b. 適正人数で処理可能な態勢の確立（効率化）

事務局、室体制について、より一層の職員のスキルアップに取り組む。

これまでの事務局2名体制の維持は困難であり、事務局長も含め個教会との兼任も視野にいれておく必要がある。

c. 宣教の責任主体は個々の教会及び教区であることとの堅持

■解説

「1. 基本方針」に続き「2. 宣教態勢」が確認されます。

日本福音ルーテル教会の宣教（伝道）の最前線は、「個々の教会」にあります。そして「個々の教会」は孤立無援に、それに当たるわけではありませぬ。日本福音ルー

テル教会は、この働きを「地区・教区・本教会」が支えることを確認しています。この「支え」は

牧師数が教会数と合っていた時代は、特別協力金による牧師給の相互支援という態勢によるものでした。しかし経済的

な相互支援は、この相互の「支え合い」が見えにくい側面もあつたかもしれませぬ。

線は、「個々の教会」にあるからこそ、これを可能にできたのです。もちろん、このような兼任体制の中で、礼拝時間を

をずらす礼拝所もあります。あるいは主日礼拝の曜日を変更する礼拝所もあります。あるいは

牧師が司式する礼拝は月1度程度になつている

礼拝所もあります。礼拝所の閉鎖に伴い、家庭集会所となつているところ

もありません。このように兼牧を通して教会合同に至つた教会もあります。

その後、時間の経過の中で礼拝所を1カ所に集約し、残つた礼拝所を売却

し、集約した場所に新たな会堂を建てた教会もあります。

もちろん「個々の教会」が成長することが総合方策の目指すところでは

な「個々の教会」の危機が、この「支え合い」を目に見えるものにして

いることを私たちは覚えたと思ひます。困難にあ

る「個々の教会」を地区の教会と牧師は、これを支えることを自明のこ

ととして兼牧を受け入れてきました。このようなことは「各個教会主義

の連合体」ではあり得ないことです。牧師を送り出す教会も、そして兼牧

を受け入れる教会も「包括的」な一つのルーテル教会であるという認識が

あるからこそ、これを可能にできたのです。もちろん、このような兼任体制の中で、礼拝時間を

をずらす礼拝所もあります。あるいは主日礼拝の曜日を変更する礼拝所もあります。あるいは

牧師が司式する礼拝は月1度程度になつている

礼拝所もあります。礼拝所の閉鎖に伴い、家庭集会所となつているところ

もありません。このように兼牧を通して教会合同に至つた教会もあります。

その後、時間の経過の中で礼拝所を1カ所に集約し、残つた礼拝所を売却

し、集約した場所に新たな会堂を建てた教会もあります。

もちろん「個々の教会」が成長することが総合方策の目指すところでは

な「個々の教会」の危機が、この「支え合い」を目に見えるものにして

いることを私たちは覚えたと思ひます。困難にあ

る「個々の教会」を地区の教会と牧師は、これを支えることを自明のこ

ととして兼牧を受け入れてきました。このようなことは「各個教会主義

の連合体」ではあり得ないことです。牧師を送り出す教会も、そして兼牧

を受け入れる教会も「包括的」な一つのルーテル教会であるという認識が

「ありがとう神さま」みんなであつなごう！ Zoomルーテル子どもキャンプ報告

池谷孝史

（TNG子ども部門・博多教会・福岡西教会牧師）

毎年夏に2泊3日で行われていたルーテル子ども

キャンプは、8/9(月・祝)に、昨年引き続きオンラインで行われました。

昨年から日常生活のあらゆることが制限され、

難しい状況だからこそ、そんな日常で子どもたちが

が見つけた「ありがとう神さま」の気持ち、参加者がそれぞれ持ち寄り、

「つながり」を持ちたいと願つてのことでした。

当日は、青年のリードでの讚美、アイスブレイクのゲームなどの後、参加

した子どもたちと青年に「神さまありがとう」と思

うことを分かち合つてもりました。子どもたちは

画面上での初対面という

こともあり、少し緊張気味ではありましたが、キャンプ卒業生の青年たちが盛り上げてくれたこともあり、楽しく過ごせたのではないかと思います。

コロナ禍の中、子どもキャンプのあり方も大きく変わりましたが、このキャンプが子どもたちの心に残り、友達や教会、神さまにつながつてくれればと願っています。

今回のキャンプのために、案内告知して下さった方、スタッフとして快くお手伝い下さった方、お祈りに覚えて下さった方など、すべての方に感謝いたします。

参加した子どもたちが感想を寄せてくれたので紹介させていただきます。

★初参加でした。「神様に感謝することは毎日元気になれることです。コロナがおさまったら今度は画面上で初対面という

★B5チラシ「ベツレヘム」の星(文字入り) (絵・葉祥明氏)

★A4週報用紙「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5週報用紙「ベツレヘム」の星(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

みんな集まって一緒に遊びたいです。(I・Hさん、むさしの教会、小学5年)

★最初は緊張したけど、色んな人と話していくうちに、緊張が解けて、楽しかった。

みんなとの交流を深められて嬉しかった。来年の子どもキャンプはみんなと会えるといいです。(M・Mさん、栄光教会藤枝礼拝堂、小学5年)

★ぼくは、ルーテル子どもキャンプに参加して、たくさん仲間と会えて、とてもうれしかったです。主に感謝します。(A・Sさん、下関教会、小学6年)

★今までは帰省のためにキャンプに参加できなかったが、今回は参加できて楽しかったです。地域の教会の皆さんと交流出来て良かったです。(I・Hさん、東京教会、小学1年)

★B5チラシ「ベツレヘム」の星(文字入り) (絵・葉祥明氏)

★A4週報用紙「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5週報用紙「ベツレヘム」の星(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)

★B5チラシ「飼い葉桶」(絵・葉祥明氏)